

令和6年度 夢の樹みどり 事業報告書

1 総括

平成29年4月の開設以来、利用者の生活支援と共に働くということを大切に活動に取り組んできました。令和5年度以降は、これに加え東京都の運動習慣定着支援事業に参加し、運動による健康促進に力を入れている。東京都の運動習慣定着支援事業も2年目となり、運動プログラム対象者も大幅に増え（令和5年度は10名、令和6年度は25名）、可能な限り利用者一人ひとりの希望や状況に合わせて行うことで、プログラムも徐々に充実してきているように感じる。未だ試行錯誤しながら実施している面も多いが、多くの利用者が意欲的に参加しているように見られ、徐々にその効果が表れてくることを期待している。

重要課題であるPDCAサイクルに基づいたチーム支援の充実については、少しずつ改善はしてきているが、自分の担当以外の業務への関心の薄さや利用者の希望や状況に合った個別支援計画の作成スキルなど、まだ不十分な点は多く、引き続き力を入れて取り組んでいく必要がある。

2 事業概要

- | | | | |
|------------|------------------|-----|-----------------|
| 1) 施設名 | 夢の樹みどり | | |
| 2) 事業種別 | 生活介護 | | |
| 3) 所在地 | 東京都小平市小川町1-744-1 | | |
| 4) 経営主体 | 社会福祉法人未来 | | |
| 5) 利用定員 | 40名 | | |
| 6) 利用現員 | 43名（令和7年3月31日現在） | | |
| 7) 法人認可年月日 | 平成14年12月11日 | | |
| 8) 事業開始年月日 | 平成29年4月1日 | | |
| 9) 職員 | （令和7年3月31日現在） | | |
| | 管理者 | 1名 | |
| | サービス管理責任者 | 1名 | （管理者兼務：常勤換算1.0） |
| | 生活支援員 | 27名 | （常勤換算25.1） |
| | 看護師 | 3名 | （常勤換算1.6） |
| | 嘱託医 | 1名 | |

3 基本理念

- 1) 一人ひとりの自己実現の支援
- 2) 互いの尊厳の尊重と信頼関係の構築
- 3) 安心と希望の持てる生活

4 基本方針

- 1) 日中活動の保障
- 2) 豊かな生活の支援
- 3) 利用者一人ひとりの主体的な生活の支援
- 4) 個別支援計画に基づいた計画的な支援
- 5) 安心できる将来への支援

5 実施事業（活動内容）

- 1) 就労支援事業

- (1) 資源回収
- (2) 公園清掃
- (3) 使用済み小型家電回収
- (4) 小型充電式電池の分別
- (5) 書類封筒作成
- (6) 紙袋底板入れ
- (7) 缶・ペットボトル潰し
- (8) その他軽作業

2) 生活支援事業

- (1) レクリエーション (月 2 回実施)
- (2) 旅行 (年 1 回実施)
- (3) 運動プログラム (週 3 日～5 日実施)
- (4) ストレッチ (週 3 日～4 日実施)
- (5) 夕方生活支援事業 (週 3 日実施)
- (6) 東京都運動習慣定着支援事業 (7 月より 2 か月に 1 回実施)

3) 行事

- 4 月 利用者永年勤続表彰式
- 5 月 ドッジボール大会 (於：小平市民総合体育館)
- 6 月 シャボン玉ショー鑑賞 (於：小川町一丁目地域センター)
- 7 月 川遊び (於：秋川ふれあいランド)
- 8 月 映画鑑賞
- 9 月 ハロウィンオーナメント作り
- 10 月 旅行 (新潟県湯沢方面)
- 11 月 みかん狩り (於：高橋みかん園)
- 12 月 コダレンジャー鑑賞 (於：東大和市民会館ハミングホール)
- 1 月 初詣 (於：小平熊野宮神社)
- 2 月 ドラムパフォーマンズ鑑賞 (於：小川町一丁目地域センター)
- 3 月 かるた大会

6 日 課

開所・送迎	8：30～9：00
受入・活動準備	9：00～9：50
朝礼	9：50～10：00
活動	10：00～12：00
(作業・運動PG)	
昼休み	12：00～14：00
昼礼	14：00～14：10
活動	14：10～15：30
(作業・運動PG)	
実績記入・お茶	15：30～15：50
終礼	15：50～16：00
送迎・清掃	16：00～17：00
GPミーティング	17：00～17：15
全体ミーティング	17：15～17：30

7 重点課題・目標に対する成果と課題

1) 活動

(1) 目的意識の共有及びコミュニケーションの強化によるチーム支援の実施

① 職員間の連携協働体制の構築

活動や利用者の状況等について施設長、主任、リーダー、職員間の情報共有や意見交換を密に行うほか、職員一人ひとりが自己の担当以外の業務にも関心を持ち、相互に業務を補完し合う。

【成果と課題】

ミーティング等でリーダー層の職員を中心に職員間のコミュニケーションの必要性や手法について繰り返し話し合いが行われ、前年度に比べて職員間の情報共有や意見交換が進んでいる。ただし、事業全般への視野の広さや連携協働に対する意識は職員によってまだ差があり、依然自分の担当以外の業務への関心の薄さが見られることが多かった。1 Fと2 Fの職員が相互に職員を派遣するといった業務交流をあまり積極的に行わなかったことも一因と考えられる。

② 支援計画の目的意識の共有と計画に沿った支援の実施

利用者の状況や希望に合った適切な個別支援計画を作成し、利用者一人ひとりの支援計画に沿って支援を実施するとともに、その成果などについて丁寧に検証を行う。

【成果と課題】

前年度と比べ、ケース記録に一日の利用者の様子や行動が丁寧に記載されるようになり、その理由や心情に掘り下げて考察する点にも改善が見られている。また、個別支援計画の評価も項目ごとに丁寧に記載されるようになった。しかし、本人や家族の希望の聴取が不十分な点があったほか、支援目標が作業能力や身体機能に関する事項のみに限定されるなど、一部の支援目標の設定に偏りが見られた。

(2) 活動内容と支援の充実

1 Fー

① 車いす利用者等の身体に機能麻痺がある利用者の負担軽減と機能の維持、向上

長時間の座位を避けるため、毎日2時間程度マットなどで体を伸ばしての静養やストレッチを行う。

【成果と課題】

車いす利用者3名の内2名に対して、週3日～4日の頻度で30分から1時間程度のストレッチを行ったほか、毎回トイレ誘導の際、トイレまで介助歩行することを昨年度から継続している（職員体制の都合上、ストレッチを毎日実施することはできなかった）。座位や立位の保持時間の伸長及び下肢機能や体幹の強化などは、昨年度に伸張が見られ、その状態を維持している。なお、残りの1名は併用利用している他の事業所で理学療法を行っているためストレッチは行っていないが（歩行は困難）、毎日車いすのフットレストをはずして足を上げる動作を継続して行った。

② 利用者の主体性の向上

朝礼などの司会を当番制にして利用者が参加できる場面を設け、活動に向けた意欲と主体性の向上を図る。

【成果と課題】

1 Fグループの全利用者が交代で朝礼等の司会を行うことについては定着しており、各利用者が自分に合った方法で司会役を担っている。多くの利用者にとって、人前で話すことや、注目される緊張感や役割を持つことが自分に自信を持つための良い経験になっていると感じている。また、この効果からか、前年度に比べて意欲的に活動に参加する利用者が増えているように感

じる。

2 Fー

① 利用者の情緒面の安定及び不安感の解消

一人ひとりにあった環境設定や、分かりやすい予定の伝達により見通しを持ちやすくすることで、利用者の情緒面の安定を図る。他害の可能性のある利用者に対して、不安感の解消など気持ちの安定化を図るとともに、他のコミュニケーション手段の獲得に向けた支援を行う。

【成果と課題】

朝礼などの場面で作業道具を示し見通しをもちやすくする取り組みのほか、視覚情報が多くて不安定になる利用者6名に対してはパーテーションで視界を限定する取り組みを継続している。また、より見通しを持って活動に参加できるように、利用者2名に対して個別の予定ボードを作成し、毎日予定を確認する取り組みを開始した。令和2年度以降、ヒヤリハットにおける他害の件数は減少傾向にあったが、今年度は昨年度比でやや増加している（5年度72件、6年度75件）。予定の混乱や周囲の雑音などが不穏化の要因と推察できることもあるが、理由がはっきりとわからないことも多かった。利用者の障害特性を理解せず、不適切な接し方をする場面（本人が喜ぶということで、ボールを投げつける）も見られており、大きな反省点となった。職員の対応も含め、引き続き増加の原因や不穏化の原因の探求に取り組んでいきたい。

1 F・2 F 共通ー

① 利用者の安全確保の徹底

見守りや職員配置の工夫を行い、他害、離接等の事故防止を徹底する。

【成果と課題】

離接防止の為の出入り口付近の職員配置、不穏化傾向のある利用者への付き添い等により、離接、他害などで大きな事故に至るケースは発生していない。車椅子利用者には職員2名での介助を徹底し、転倒、落下等の事故は起きなかった。

② 健康管理の充実

- ア 通所前の検温やマスク着用の声かけ、建物内消毒等の新型コロナウイルス感染防止対策を徹底して行う。
- イ 毎月の体重測定や年1回の健康診断を通して、一人ひとりの健康状態を把握する。

【成果と課題】

- ア 手洗い、消毒、換気、検温、マスクの着用等の基本的な感染対策を継続して実施した。上半期を通して、利用者、職員共に数名の新型コロナウイルス罹患者があったが、事業所での感染拡大はなかった。
- イ 年間を通して毎月体重測定を行ったほか、8月にはあきる台病院の検診車の巡回という形で健康診断を実施した。全利用者43名の4月と3月の体重を比較すると、11名に体重の減少が見られ、4名に体重の増加が見られた（他28名に大きな体重の変化はなし）。なお、健康診断の結果については、利用者に配布し、健康状態について家庭への情報提供を行ったほか、10月職員会議で職員に周知した。

③ 利用者の健康促進・保持のための運動プログラムの充実

- ア、令和5年度の健康診断結果に基づき、運動プログラム対象者を増やす。
（令和5年度…10名、令和6年度…20名）
- イ、一人ひとりのニーズに応じて週3日～5日のウォーキング、1日10分間のトランポリンや踏み台昇降運動を実施する。
- ウ、運動場や体育館を借りて、月1回以上利用者全員が運動する機会を作る。

【成果と課題】

- ア 令和5年度の健康診断結果を踏まえ、前年度まで運動プログラムを実施してきた利用者10名に加え、今年度から対象者を15名増やし、利用者25名に運動プログラムを実施した。
- イ 前年度まで運動プログラムを実施してきた利用者10名は、週3日～5日のウォーキングを継続し、内4名は週2日～3日の階段昇降運動を新たにプログラムに加えた。今年度から運動プログラムを開始した利用者15名については、内2名が週3日～5日のウォーキングに取り組み、他の13名は毎日腹筋運動（平均20回）を実施した。4月頃は腹筋運動の取り組み方に戸惑う利用者も多かったが、5月以降から多くの利用者が自発的に取り組むようになった。
- ウ 東京都生活文化スポーツ局から要望があり、前年度実施した東京都の運動習慣定着支援事業に今年度も参加した。2か月に1回の頻度で事業所の活動室でリズム体操、風船バレー、ボッチャなどを行ったほか、近隣の体育館ではサーキット（ミニハードル、フラフープ、平均台など）を実施し、多くの利用者が楽しそうな様子で取り組んだ。同事業を実施しない月は近隣の運動場や体育館を借り、利用者一人ひとりの希望に応じた運動（自由に走り回る、ボールを使用する等）を実施した。毎回約30名の利用者が参加した。

④ 新規の活動の開発

これまでの活動の継続、充実を図るとともに、利用者の嗜好、特性等に応じた活動の開発を行う。

【成果と課題】

毎月2回利用者の楽しみとなる活動（絵画、カードゲームなど）を継続している。作業活動については、長年続けてきた受注作業（紙袋の底板入れ）の受注量が5月から10月にかけて大幅に減少したものの、11月以降回復したことから、あまり積極的に新規開拓を実施しなかった。その他、新たな活動として、シュレグダーの紙や紙粘土を原料とした自主製品（マグネットや小物）製作に試験的に取り組んだが、まだ販売できる品質にはなっていない。

2) 人材育成

- (1) 管理職候補者及びリーダー層の育成
- (2) 出納職員の育成
- (3) 職員の専門性向上
 - ① 利用者の行動の背景や心情面を掘り下げて考える視点を持つ。
 - ② 利用者の気持ちや立場に配慮した声掛けを行う。
- (4) 連携協働体制の強化

【成果と課題】

- (1) 日々の業務を通じて、利用者支援や職員指導、その他業務全般に必要な判断基準や対応方法をその都度指導し、全般的にスキル向上が見られた。
- (2) 出納職員2名に対して、予算執行管理の方法や勘定科目の仕訳ミスの見つけ方などについて実務を通して指導を行った。前年度と比べ仕訳ミスが減少し、月次試算表作成の精度と速度が向上した。
- (3) 職員全般的に利用者とは良い関係性が作られているほか、職員によって差はあるものの、個々の利用者の特性の把握やリスク管理など、基本的な支援スキルにも向上が見られた。また、前年度と比べ、会議等の場面で利用者の行動の原因や心情面を考えようとする発言も増えてきている。ただし、作業を効率的に進めることを優先するあまりに、利用者の心情理解が不十分な場面も見られた為、9月職員会議の際に、利用者の気持ちに寄り添いながら丁寧な支援を行うことの大切さを改めて全職員で確認した。年度後半からこの課題に取り組み始めたが、前述のように不適切な支援も見られているほか、内部牽制も機能して

おらず、まだ大きな課題と考えている。
(4) 7-1) - (1) -①に記載。

3) 経営管理

(1) 介護給付費の安定確保

1日平均利用者37.8人(45人在籍、出勤率84%)を目標(令和5年度実績1日平均利用者37.1人-令和5年1月末現在)とするほか、必要な職員配置数を維持し、重度障害者支援加算の算定(25人)を継続する。

【成果と課題】

1日平均利用者数は37.9人となり、前年度の37.3名より増加し目標を上回った。また、重度障害者支援加算の算定(25人)を維持できたことも影響し、給付費収入は約1億4,660万円となり、前年度比約400万円増となった。

(2) 経費削減

使用していない活動場所(特に玄関等の利用頻度の高い場所)の電気やエアコンの消し忘れをなくし、節電を徹底する。

【成果と課題】

前年度と比べ、活動室の電気やエアコンの消し忘れは減少しているが、玄関や2Fエレベーターホール等の灯り消し忘れは依然見られており、節電の徹底はできなかった。

(3) 計画的な予算執行

毎月の月次試算分析を正確に行うとともに、必要に応じて補正を行い、年間を通して計画的に予算執行を行う。

【成果と課題】

毎月の月次試算分析に基づき、概ね計画的に予算を執行することができた。緊急的な支出も発生しなかった。

8 その他の成果と課題

1) 社会福祉法人六三四と夢の樹みどりの利用者の合同送迎実施

他市居住の利用者の送迎を効率化させるために、社会福祉法人六三四と夢の樹みどりの利用者の合同送迎を平成30年2月から継続して実施している。

9 事故等報告

- 1) 9月 車両で移動中に工事現場付近で誘導員の指示により停止していた際、工事車両通過のための道幅確保のためバックしたところ、後方不注意で当方車両の後ろに停車していた2輪車と接触。相手の2輪車のタイヤカバーの一部が破損したが、双方に怪我人はなく、警察に通報の結果、物損事故との扱いになった。当法人加入の保険にて損害賠償を行った。
- 2) 3月 利用者の送迎中、停車していた車両の前方に出ようとしたところ、車間距離を見誤り、当方車両の左側側面と相手車両右後方部分が接触。相手車両の右後方ブレーキランプの一部が破損したが、双方に怪我人はなかった。相手方の希望(福祉車両で利用者送迎中だった為)により警察への通報は行わなかったが、当法人加入の保険にて損害賠償を行った。

10 開所状況

- 1) 開所期間 自 令和6年4月1日 至 令和7年3月31日
- 2) 開所日数 (1) 週開所日数 5日間
- (2) 開所時間 午前9時～午後4時
- (3) 年間延開所日数 242日間 (前年度 242日)
- (4) 平均活動時間 7時間

1.1 利用状況

- 1) 利用者延人員 9,174人 (前年度 9,008人)
- 2) 1日平均利用人員 37.9人 (前年度 37.3人)
- 3) 体験実習者延人員 18人 (前年度 3人)
- 4) 1日平均実習人員 0.1人 (前年度 0.1人)
- 5) 実習者実人員 10人 (前年度 2人)

1.2 利用者状況 (令和7年3月31日現在)

1) 年齢

- 20歳未満 0名
- 20歳以上30歳未満 22名
- 30歳以上40歳未満 15名
- 40歳以上50歳未満 5名
- 50歳以上60歳未満 1名
- 60歳以上70歳未満 0名
- 70歳以上 0名

2) 障害の状況

- 愛の手帳1度 2名 (内身障手帳所持2名)
- 愛の手帳2度 37名 (内身障手帳所持2名)
- 愛の手帳3度 2名
- 愛の手帳4度 2名 (内身障手帳所持1名、精神保健手帳所持1名)
- 身体障害者手帳1級 5名 (内愛の手帳所持5名)
- 精神保健福祉手帳2級 1名 (内愛の手帳所持1名)

障害支援区分

平均障害支援区分 5.1 (前年度 5.2)

3) 通所手段

- 送迎車利用 43名 (内1名交通機関利用と併用)
- 交通機関利用 1名 (送迎車利用と併用)

4) 居住状況

管内居住 33名 管外居住 10名

5) 性別

男性 36名 女性 7名

1.3 利用者工賃

平均工賃 1人 月額 : 4,663円 (前年度 4,792円)

日給 : 274円 (前年度 260円)

1 4 夕方生活支援実施状況

- 1) 実施日数 130日(前年度 134日)
- 2) 利用者(令和7年3月31日現在)
 - (1) 利用者数 23人(前年度 24名)
 - (2) 利用者延人数 497人(前年度 507名)
- 3) 支援者(令和7年3月31日現在)
 - (1) 職員 33人
 - (2) 職員延人数 375人
- 4) 内容
 - (1) パソコン 30回
 - (2) ゲームセンター 24回
 - (3) ボウリング 23回
 - (4) ドライブ 18回
 - (5) 料理 17回
 - (6) 映画鑑賞 16回
 - (7) 散歩 2回

1 5 環境の整備

定期的に施設内外の清掃を実施し、年間通して清潔な環境を保つことができた。

1 6 防災

自衛消防訓練を年2回実施した。